

青少年の問題行動についての分析

—教育環境アセスメントに関する研究 第5報告—

金 平 文 二*・岩 井 絹 江**

(昭和61年9月30日受理)

Analysis of Problematic Tendency for Young Generation —A Study for Assessment of the Educational Environment (V) —

Bunji KANEHIRA and Kinue IWAI

(Received September 30, 1986)

はじめに

教育環境アセスメントに関する第2報告「人間成長過程における教育環境阻害要因の探索」および第3報告「教育環境を阻害する各種要因の探索」において、青少年の健全な発達・育成をはかる上で環境がどのように影響を及ぼしているか、教育環境を阻害すると思われる要因にはどのようなものがあるかを分析、考察した。さらに第4報告の中で出された教育環境を阻害すると思われる多種多様な要因の中から、“青少年教育のありかたや教育環境について当面しているいくつかの重要な問題”を取り上げ小・中・高・大の子どもを持つ父母層に対してどのような意見を持っているかについて意識調査を実施し、その実態を把握、分析した。

この第5報告では、第2、第3報告の教育環境阻害要因の探索及び第4報告の父母層への意識調査の中で、大きな問題として浮上し、近年教育問題の中心として調査・分析・考察・審議されている“青少年の問題行動(いじめ、非行)”の問題に焦点をあてることとした。青少年の問題行動(いじめ、非行)の現象の把握を行うことで青少年の健全な発達・育成をはかるうえで教育環境がどのように影響を及ぼすかについて分析・研究することとした。

I 研究の目的

教育問題として“青少年の問題行動(いじめ、非行)”が大きく取り上げられるようになって久しいが、数年前に比べ最近では“いじめ”が半減しているとの調査結果が

* 児童学科

** 学生部

公的機関から出されている。これらの調査結果をみると、60年から61年春にかけて月平均60~70件と増加傾向にあったいじめ事件が61年3月に入ってからは20件台に減少しており、2月に起きた富士見中学事件「生徒のいじめによる自殺」が境目となっていじめの件数が数字の上では沈静化しているようである。現実にいじめが急減しているかどうかは疑問であるが、マスコミが取り上げ、親や教育現場がそれなりに対応するようになり、早期指導がなされるようになったため今までのような深刻ないじめには歯止めがかかったようである。

そこで昨年の青少年の問題行動に関連する記事を幅広く収集し、それらをKJ法的手法によって分類することをとおして、青少年の問題行動(いじめ、非行)の現象を把握し分析することを今回の研究のねらいとした。

II 研究の方法

朝日新聞縮刷版の昭和60年4月から昭和61年3月までの1カ年の朝夕刊の記事について、青少年の問題行動に関すると思われる記事について、大小の別なく一項目としてチェックし切り抜きをした。それらをKJ法的手法を用いて、内容的に類似していると思われるものに表題を付けて分類項目とした。この分類作業の結果、記事の総数は279件、分類項目は5項目となった。

今回の研究は、青少年の問題行動に関する現象の把握と分析であるが、限られた記事データでの把握であり、はっきりした成果は得られないかもしれないが、現象の大枠を把握し分析するという形でデータをまとめてみた。

Ⅲ 結果の考察

1. 青少年の問題行動の現象に関する考察の枠組

青少年の問題行動に関する分類項目は、表Ⅰのように総数5項目となり、これらの項目について教育環境アセスメントという観点から個別に考察を行うこととする。

表1 青少年の問題行動の現象に関する枠組(279件)

青少年の問題行動	113	・小学生・中学生 ・高校生年代(無職を含む)
問題行動(いじめ)の調査データ	42	・文部省・教育委員会 ・警視庁
問題行動(いじめ)についての対策・措置	44	・文部省・教育委員会・警視庁・法務局・日教組・親と民間・マスコミ
いじめについての意見・社説・投書	61	・識者の意見・社説・投書
青少年の実態・文化傾向	19	

(数字は記事度数)

2. 青少年の問題行動について

表2 青少年の問題行動(113件)

項	目	記事数
小学生(8件)		
1.	同級生に乱暴	2
2.	グループで盗み(盗難車で暴走)	1
3.	仲間けんかの後、自殺	1
4.	しかられて自殺	4
中学生(84件)		
1.	強盗、ひったくり(遊ぶ金ほしくて)	10
2.	飲酒、シンナー、売春	4
3.	注意に逆上殺人、女生徒暴行絞殺	5
4.	生活指導教員に暴力、集団リンチ	7
5.	生徒間乱闘、リンチ事件(男8・女6)	14
6.	いじめ怖くて天井裏生活	1
7.	いじめられて仕返し	6
8.	成績、進学問題等で自殺	10
9.	いじめられて自殺(中野富士見中事件含む)	19
10.	いじめ生徒について(")	8
高校生(21件)		
1.	強盗、ひったくり(遊ぶ金ほしくて)	6
2.	殺人、覚せい剤	5
3.	いじめ仕返し、いじめ怖くて退学	5
4.	受験に失敗、受験に悩み	5

青少年の問題行動に関する記事数は小学生8件、中学生84件、高校生年代(無職含)21件で総数113件であった。文部省の調査によると学年別いじめ発生件数は全体で15万5千件、うち小6が2万件で最多発生となっている。

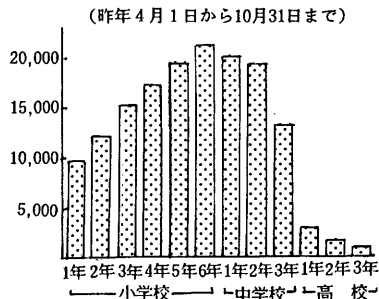


図1 学年別いじめの発生件数
(文部省公立学校いじめ調査・朝日新聞より転載)

問題行動の記事数は8件で2万件の最多発生数に比べはるかに少ない。中学生の問題行動の記事数は84件で総数の76%を占めている。項目としては、いじめによる自殺(中野富士見中の鹿川君自殺を含む)が最も多く、次いで生徒間乱闘、リンチ事件、さらに遊ぶ金ほしさのための強盗、ひったくりとなっているが、いじめの仕返しや教員への暴力も目立つ。いじめの内容としては金の要求、いやがらせ、暴力、いじめの強要など陰湿なものが多く、いじめの仕返しも友人を誘って暴力をふるう、無関係な人や物に乱暴、放火など問題行動が拡大している。さらにシンナー、売春、婦女暴行、殺人など大人社会同様の傾向を示す事件も多くなっている。高校生になるといじめ発生件数も小中学生に比べ著しく少なく、問題行動の記事数、内容も減少している。

警察庁の刑法犯罪少年の補導人数をみると、少年非行全体では昨年わずかながら減少し歯どめがかかったかに見えたが、ほぼ高原状態が続いている。非行(問題行動)の6割強は罪の意識が低かったり、軽い気持ちによる万引きなどの初発型非行が多い。また、学校や職場を通して指導のできない無職少年を中心とした浮浪者襲撃やひったくりなどの凶悪犯罪も増加している。

問題行動の新聞記事は少ないが、いじめ発生件数としては最多で、心身共に大きく成長する時期でもある小学生に大人の縮図のような問題行動やいじめの発生件数が多い。身体は大人、心は思春期のデリケートな感情を持つ中学生、中学生に比べ心身共に安定しているが、偏差値

振り分け入学で十分満足した生活をしているか疑問を残している高校生年代。これら青少年の問題行動に対しては、問題行動へ導く要因や教育環境を阻害する要因を取り除くために、家庭・学校・行政共に真剣に取り組む、今後の社会を担う青少年として健全に育成する必要がある。

3. 問題行動（いじめ）の調査データ

すでに「2. 青少年の問題行動」の項目で60.4～61.3にかけて新聞記事や文部省の調査における青少年の問題行動の状況をみてきた。ここでは具体的に「青少年の問題行動（いじめ）」について、文部省・警察庁・教育委員会等の官公庁や民間団体などが各々の立場で幅広く調査し、60.4～から1カ年の間に新聞誌上に掲載されたものを考察してみることにした。

記事総数は42件、特に61年2月に発生した「中野富士見中のいじめが原因の自殺」を契機として、官公庁ではいじめに対する検討会議等が設置され、その中でいじめや体罰に関する多くの調査が行われた。

表3 問題行動（いじめ）の調査データ（42件）

文 部 省 (5 件)	1. 全国公立校への「いじめ・体罰調査」7カ月で約15万件いじめ発生、中学の69%でいじめ発生
教育委員会 (10 件)	相談室にてのいじめ「重症例」調査 昨年より約100件増加、相談件数523件都公立校調査結果、8割の学校でいじめ発生、集団によるいじめ多く、3分の1が未解決。
警 視 庁 (7 件)	1. いじめ特別補導班2カ月で70人補導 2. 小、中、高いじめ事件のまとめ 事件として531件取扱い。 全国で1920人補導、3分の1が女子。 3. 万引き1カ月で900人超す。見つかると居直る現代っ子。 4. いじめ相談コーナー開設2カ月で846件
法 務 局・ 民 間 等 (20 件)	1. 人権擁護委員会の「人権」の作文募集で3分の1がいじめについて。 2. 中学教諭が中学生にアンケート、いじめ見ても高学年など知らんぷり。 3. 日弁連が公立中高に調査、校則づくめはいじめ誘発。

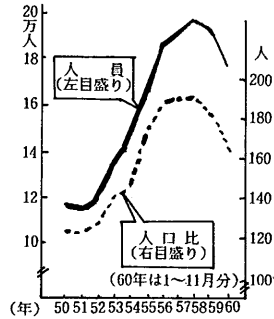


図2 刑法犯少年の補導人員及び人口比の推移
(警視庁のまとめ・朝日新聞より転載)

文部省の調査（前記一図1）では60.4～60.10の7カ月間に全国公立校で15万5千件のいじめ発生のデータが出されているが、この数字は報告する学校側が過少報告をしている場合もあり、実態はこの数字をはるかに上回っているのではないかと予想される。各都道府県の教育相談窓口に寄せられたいじめ被害の「重症例」は523件で、いずれも親や教師では処理しきれず、専門機関に処理を求めたもので深刻な事例が多く、この中の6割がいじめによる不安や恐怖感から登校拒否をおこしていると報告している。いじめる側の動機としては、「うっぶん晴しや転校生、動作の純い子、立場の弱い子」などへの攻撃が目立ち、いずれの場合も教師が気付くことは少なく、ほとんどがいじめられた側の家族からの通報で発見されとしている。さらに警視庁の「いじめ補導班」はいじめの方法が金の要求、いやがらせ、無視などから「ライターで火あぶり」「虫やくさった物を食べさせる」などさらに陰湿・過激になってきており「いじめ手口集」まで持つグループもあると報告している。また警視庁や教育委員会などに設けられた「いじめ110番」などの電話相談にも、いじめられている本人や家族からの相談が多くあり問題の大きさを感じさせる。朝日新聞が61年3月に全国3,000人を対象に行った調査結果では「いじめの第一原因」として「しつけができていない」23%、「過保護」22%と「家庭や親に原因がある」45%であった。都教育委員会は、61.4より1年間に東京の公立校で発生した「いじめ」は延べ1万件にわたり、公立校の8割でいじめが発生しており、さらにその3件に1件は未解決であると報告している。

また、日教組の国民教育研究所が発表した「教育意識調査」によると、先生の8割が「いらいら」し、4割が

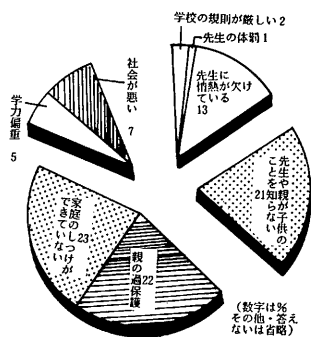


図3 いじめの第一原因
(教育問題調査・朝日新聞より転載)

「いつも疲れがとれない」、四分の三が「学級の人数が多すぎる」答えている。さらに「いじめ」とは別に問題となっている「体罰」については「一時的に押さえることができても教育的効果は期待できない」69%、「子どもの人権や心を傷つけるからしてはならない」63%と否定的な答えがあった半面、「指導方法のひとつ」「過大校、過大学級ではやむをえない」との肯定が、それぞれ46%と32%あった。「体罰」は子どもの心を傷つけ教育効果も期待できないと理解しながら、実際の指導面で容認している実態が浮彫りにされていた。これらを見ると青少年を取り巻く状況は深刻であるが、周囲が真剣に取り組むことでかなり減少すると思われるが、教育環境を含め、青少年の健全育成に早急に対応の必要がある。

4. いじめについての対策・措置

今回のデータを新聞記事から収集した60.4～61.3は、いじめが原因での自殺(中野富士見中等)が相次ぎ、いじめ問題が深刻化してきた時期でもあり、「いじめ」に対する対策・措置は官公庁、学校、親、民間、マスコミなどあらゆるところで検討され、新聞が記事として取り上げた主なものだけで86件にもものぼっている。

教育的立場から文部省、教育委員会が相談窓口の設置や手引きの作成など一斉に腰をあげたという感が強い。文部省の対応等として主なものは、生徒指導会議が「いじめられる子ばかりでなく、いじめる子の心の中にも入ろう」と子どもへの「触れ合い」を教師に望む提言をした。さらに「いじめによる被害が児童・生徒の心身の安全を脅すほど深刻化している場合は、学校教育法の施行令を弾力的に運用し転校できるようにする」という緊急対応措置を出した。しかし、いじめの多くは、いじめら

れる側の弱さもからんでおり、安易に転校させても新しい学校でふたたびいじめられる場合もあり、いじめの対応として最良の方法とはいえないのではないかとのコメントも多かった。臨教審では、いじめについて相談しやすい女性相談員を置いた窓口を設置することを決め、学校、警察、法務局などバラバラに行われている相談窓口の連絡を密にし、一体となって取り組むことを提言した。教育委員会では、「教育相談所の窓口を経験豊かな校長や教頭のOBを配置し、子どもの相談相手になってもらう」ことを決めた。さらに、「心の相談役として子どもに接することのできる先生を増やす」ことを狙いと、して、スクールカウンセラー養成や「いじめ」についての学内研修の実施、また学校・家庭・地域が一体となった取り組み、家庭向け「啓発読本」の作成など多くのことが決められた。「いじめは君たち自身の問題！」として直接子どもに呼びかけるリーフレットを作成した区もあった。いじめが原因で自殺者を出した中野富士見中のある中野区教委では「いじめ克服」をテーマに親、地元住民も含め臨時教育委員会を開き対応を検討した。

中野富士見中では、生徒自らがいじめ追放三目標(基本的生活習慣、正しい心と勇気、いたわり)を決め、いじめ追放にのり出した。しかし他校の「いじめ」への措置をみると「非行生徒を隔離し保健室で授業」や「いじめた生徒を断髪や退学処分にする」など必ずしも望ましいとはいえない方策もとられているようであった。

補導的な立場から警察でもあらゆる対策がたてられた。他と同様「いじめ相談室」「いじめ追放月間」の設置や、「手引書」の作成などいじめへの取り組みが行われた。

親の立場からは「いじめを考える集い」や「いじめ体験報告会」など様々な集会が開かれ、家庭内だけの問題にとどめず社会共通の問題として取り組み解決していこうという真剣な討議内容が記事の中に報告されていた。

マスコミでもいじめをテーマとした映画やアニメ、小冊子の製作、シンポジウムの開催などが行われ、特異なケースとして「お客様の現状を調査し、防止します」という商売まで現われ、親や子の不安につけこんだ便乗商法ではないかとして警視庁が調査に乗り出していた。対応等ではないが、学芸大教授らが中学生に対して行った「いじめ調査(図4)」の中で「いじめを担任としてどうしたらよいか」という問いに対し、担任にどうしてもらいたいのか答えあぐねている状況が出ている。

いじめ深刻化に対し、今あらゆるところで様々な対応

表4 問題行動(いじめ)についての対策・措置(44件)……主なもの記載

文 部 省 (15件)	1. 生徒指導会議「触れ合い」を教師に望む。 2. 児童生徒の問題行動に関する検討会議「深刻ないじめの場合学校指定の変更を適切に対処するよう」通知(転校) 3. 「いじめ」相談しやすいよう女性を配置。	警 察 (10件)	1. 悪質いじめに特別補導班発足。 (発足1カ月でいじめ57人逮捕, 補導) 2. いじめ追放に「いじめ特別週間」設定。 3. いじめ問題対処のため「手引書」作成。 4. 全国警察に「いじめ相談員」配置。
教 育 委 (18件)	1. いじめ対策に教育相談員として校長, O Bを起用。 2. いじめ対策に「手引書」作成 3. いじめ対策に教員研修をし, 心の相談役増やす。 4. 中野富士見中事件について「いじめ」克服について親をまじえ教委開催。	法 務 局 裁 判 所 (14件)	1. いじめは人間差別, 全国の法務局は本格的取り組み。 2. 人権擁護委員「いじめ」追放のため, 「相談どうぞ」と門戸開く。 3. 中野富士見中に人権侵害として勧告。 4. 浦和地裁, いじめは「しつけ不十分」で親にも, とおりいっぺんの注意で済ませる教師ともに責任があると損害賠償を命じた。
学 校 (5件)	1. 習志野市立中, 非行生徒を「隔離」保健室で授業。 2. いじめの学生に断髪処分, 謹慎処分。 3. 富士見中で校長が「他人の痛みがわかる人間になるよう」涙で訴え。	父 母 等 (12件)	1. 親や高校生がいじめ体験報告会 2. 中野富士見中で「いじめを考える」教師, 父母の集い開催。 3. 中野で「いじめ」区民集会開催。 4. 父親同士, おやじの会で子育て論議。
日 教 組 (6件)	1. 息つまる厳しい校則, 見直し提案。 2. いじめ克服に「一斉家庭訪問」実施。 3. 学校毎に生徒の相談しやすい窓口設置。	マスコミ (6件)	1. いじめを考える「映画」, 「アニメ」, 「小刷子」, 「シンポ」等製作, 開催。

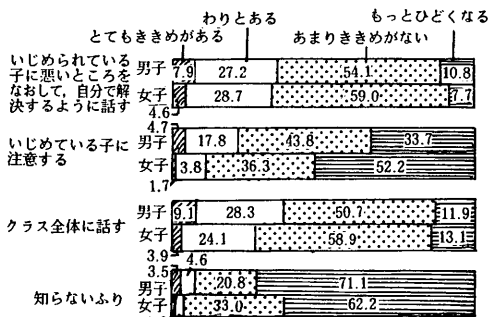


図4 いじめを担任としてどうしたらよいか
(学芸大いじめ調査・朝日新聞より転載)

が考えられているが, 社会全体の問題として良い教育環境づくり=いじめ解消を目指し, 連係して対応していく必要があらう。

5. いじめについて識者の意見, 社説, 投書

青少年の問題行動, 特にいじめやいじめが原因の自殺が相次ぎこれらに対する調査報告や官公庁, 親, マスコミ等の対応等が出された時期なので, 新聞誌上もいじめについての識者の意見や社説, 読者からの投書が多く掲載され, 直接いじめに関係すると思われる記事を収集ただけでも61件にのぼりこの問題の重要性と関心の高さがうかがえる。

識者の意見, 社説, 投書ともに, 実態や対応等に対し

幅広い意見が述べられているが, 投書では過去の体験に基づいたものが多かった。識者の意見には子どもの教育に関するものが多く, いじめの発生する原因として子どもの自我の未発達, 自立性を阻む過保護にあると指摘している。教育環境を考えるうえで, この指摘は特に重要な問題ではないかと思われる。

6. 青少年の実態と行動傾向

青少年の問題行動, 問題行動(いじめ)の調査データ, いじめへの対応等, いじめについての識者の意見等を1.~5.において考察してきたが, ここではその中心となっている青少年の実態, 行動傾向を参考に取り上げてみた。新人類といわれる今の青少年の実態や行動傾向が現われているが, 主なものは次頁のとおりである。

おわりに

この調査は, 教育環境を阻害する各種の要因のうち, 青少年の問題行動についての実態とその傾向を把握するために行ったものであるが, 1年間の新聞記事の分析という限られた範囲の探策的調査であるが, 青少年の問題行動が現象的に浮き彫りされるとともに, 教育環境の阻害要因として無視できないものであることが明らかにされ, その対応策についていくつかの示唆が得られたように思われる。いじめや非行の問題は, 単に学校や教師,

表5 いじめ等について識者の意見，社説，投書（61件）

識者の意見 (20件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. いじめについて先生に相談にいても具体的対策がない。もっと情熱をもって解決する努力を。 2. 父母の力でいじめられっ子を救うには、表情や体の異常に常に注意。 3. 人の痛み笑う傾向改めよ。いじめにつながる低俗文化、自省を。 4. 知的早熟が低年齢化し、何のために生き、何のために勉強するのか悩む子と、普通の子の心のギャップに周囲が気づいていない。親、教師は子どもの揺れ動く心をしり手をさしのべてやるべき。 5. 規則の押しつけも「いじめ」無用の反発招き、教師自身をも絞る。 6. けんかに免疫のない今の子、立ち向かえば勝てることも、強さも必要。 7. 先生はよく観察し実態把握、子どもたち自身に考えさせ解決はかる。 8. よくやっている日本の先生。一方的すぎる「いじめ」での非難。
社説 (10件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親、教師であるかないかを問わず、明日の社会をつくる子ども達に愛情をこめてみんなが自分の居場所で力を貸してやろう。 2. 今の子どもは人間が一緒にくらしゆくのはどうということか肌で学ぶ機会がない。ここを見直そう。
投書 (31件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. いじめられても笑っている、この心理をわかってほしい。消えない痛み。 2. いじめられて強くなった私。いじめっ子を見かえそうとがんばり高校へ進学。自分に自信がもてるようがんばろう。いじめられて内にもなるな。 3. 地域ぐるみで青少年の健全育成を。 4. いじめを訴える子どもの目を温かく受けとめるのが教師。 5. いじめをつくる学校での体罰。 6. 生徒の自殺、生きぬく強さを持つ。生の大切さを教えよう。 7. 今の子供は現実の厳しさを知らなすぎる。子どもに隠す現実の厳しさ。

表6 青少年の実態，行動傾向（19件）

1. 若者たちにオカルトブーム・裏に管理教育のカゲ。
 2. 少年ジャンプ人気。オモチャ箱の雑多なにぎわいが作品群にみられ、これが子どもから若者まで人気か。
 3. 肩のこる本は嫌い。かるい本が好き。心をとらえる名作は別
 4. ファミコン子供の世界占領、やらないと仲間はずれに。各々の家を順番にたずね歩く。
 5. 流行するマンガ文字。ぶりっ子形が女子に仲間意識。
 6. 小、中学生の「性意識」は半数「好きな子いる」。大人は性教育必要論。
 7. 若者に大辛（カレーなど）人気。
-
8. 理科の学力さらに向上。受験重視で実験は苦手。
 9. 子どもの運動能力、大幅ダウン。学齢期、受験が響き、体力をつける時間がない。
 10. 高校進学率、3年続きダウン。増える中学浪人。
 11. 高校中退11万人超す。「ついていけない」減り、「なじめない」急増。「輪切り」で不本意進学のうちだ結果。
 12. 今の若者は「やる気」「無気力」同居。
 13. 中学生の3割が熱中するものなし、2割が相談相手なし

生徒だけの問題として考えるのではなく、学校をめぐる父母、地域住民を含めた社会全体の問題として取り上げていくべきであり、この調査を通して得られた示唆を手がかりとして、望ましい教育環境の創出に向けて、さらに応範囲にわたる調査を継続研究として実施していきたいと考えている。しかしながら、教育環境を阻害する要

因にはさまざまなものがあり、それらをどう解決していくかについては、今後さらに、多面的で実証的な調査・研究を重ねていく必要があり、きわめて道は遠いと思われるが、教育環境を阻害する要因の一つ一つにメスを加えて、それらをどう解決するか探策を進めていきたいと考えている。

参考文献

1. 金平文二・岩井絹江：女子学生の意識についての調査—教育環境アセスメントに関する研究—第1報告 東京家政大学研究紀要，24，pp. 49—69（1984）
2. 金平文二・岩井絹江：人間成長過程における教育環境阻害要因の探策—教育環境アセスメントに関する研究—第2報告 東京家政大学研究紀要，25，pp. 53—62（1985）
3. 金平文二・岩井絹江：教育環境を阻害する各種要因の探策—教育環境アセスメントに関する研究—第3報告 東京家政大学研究紀要，25，pp. 61—68（1985）
4. 金平文二・岩井絹江：教育環境についての意識調査—教育環境アセスメントに関する研究—第4報告 東京家政大学研究紀要，26，pp. 141—147（1986）